

福島県留学生交流推進会議

事務局：福島大学学生支援グループ
住 所：〒960-1296 福島市金谷川1番地
電 話：024-548-8055 FAX：024-548-7681
発 行：平成20年1月

福島県の留学生

International Students of Fukushima Prefecture

第17号

福島県の留学生

c o n t e n t s

● 巻頭言 ●

1 いわき短期大学における
留学生の受入について学校法人昌平塾 法人事務局長
いわき短期大学学長
田久 昌次郎

2 交流風景

～ 思い出のアルバム ～

4 【推進会議の活動】 — 平成18年度 —

The Voice!
留学生の声5 陶芸で
考えさせられたこと福島工業高等専門学校 物質工学科4年
アイミ (マレーシア)6 捕鯨には反対、
でも「I♥JAPAN」福島大学 行政政策学類
ケントブローア (オーストラリア)

7 すばらしい日本

福島大学 共生システム理工学類
クエン ティトゥ (ベトナム)8 私の
オーストラリア遊学福島大学 教育学部 言語表現系コース
山崎早苗 (日本)9 ツルツル食べる
うどんからの発想東日本国際大学 留学生別科
孫 瑜 (中国)

10

第13回 福島県留学生
第14回 日本語弁論大会第13回
優勝

日本人は理解できない

福島大学 経済経営学類一年
李 寧 リネイ (中国)第13回
準優勝モンゴルのトマト、
日本でサラダになる東日本国際大学
孫 瑜 ソンユ (中国)第14回
優勝

桜の国に来ました

福島大学 特別聴講生 (河北大学交換留学生)
楊 雯雯 ヨウブンブン (中国)第14回
準優勝

原付を助けてください

福島大学 行政政策学類 3年
玄 姫 ゲンヒ (中国)

留学生関係資料

16 外国人学生受入れの現状

17 地方別・都道府県別留学生数

福島県内高等教育機関における
外国人留学生の受け入れ状況

18 地域別外国人留学生数

19 留学生の奨学金受給状況

留学生の寄宿状況

平成19年度

福島県留学生交流推進会
議構成員・運営委員名簿

福島県留学生交流推進会議要項

福島県留学生交流推進会議運営委員会要項

本学は明治36（1903）年東京開成中学第四代校長田邊新之助が創設した開成夜学校を母体とし、昭和41（1966）年現在地に昌平塾短期大学（現いわき短期大学）を、平成7年に東日本国際大学を設置し、現在に至っています。夜学校創設以来、建学の精神である孔子の教え、儒学の基本的徳目である五徳五常「仁義礼知信」を普遍の真理と捉え、これらの教えを教育により広く社会へ普及させることを図ってまいりました。その教育の理念は、日本人古来の「大和のこころ」と「義」の実践、「忠恕」（「誠と思ひやり」）を人間形成の根底に据え、平和と繁栄を希求する確かな知識と技能を修得することにあります。そのために、「あなたがいるから、周りの人も優しくなれる」といわれるような人づくり、人倫・倫理観に長けた人格の確立を目指した教育活動を展開しています。また、本年度UI（ユニバーシティ・アイデンティティ）活動を開始し、建学の精神・教育理念を具象化、人と人が寄りそい協働して地域・未来を拓いてゆく姿を表現した新たなコミュニケーションマーク・ワードの制定を行いました。

教育活動の一環として、日本の大学または専修学校等に進学を希望する外国人に日本語または日本文化を教えることを目的とした東日本国際大学留学生別科を設けています。本学の留学生受入れは昭和50年代より始まります。その当時は毎年数名の留学生受入れ数に留まっておりましたが、昭和61（1986）年に短期大学第二号として留学生別科（現在の東日本国際大学留学生別科）が開設されると、その数も飛躍的に増え、2007年7月現在68名の留学生（別科26名、本科33名）が在籍しています。学部の留学生は別科の卒業生もいれば、海外で日本語を学び本学に受験して入学する学生もおります。

いわき短期大学における
留学生の受入について学校法人昌平塾 法人事務局長
いわき短期大学学長

田久 昌次郎 Takyu Shoujiro

また、東日本「国際」大学と称することでもお判り戴けますように、国際交流も積極的に推し進めています。孔子生誕の地曲阜にある曲阜師範大学・曲阜師範学校を始め、現在六ヶ国・地域の16の大学・教育機関と姉妹校締結を行い、学術交流・教員ならびに学生の交流を推進しています。特に中華人民共和国との交流が盛んで、21世紀アジアの時代の一翼を担う東アジア諸国との相互理解と連携協力関係の構築は本学の大きな特色となっています。留学生の受入れに関しては、「国際センター」が業務全般を行っています。それは学生募集から始まり、願書の審査・入国管理局への書類の提出などの入学手続き業務から、入学後は、学生生活がスムーズに送れるよう、宿舍の紹介・医療保険の申請手続き・各種奨学金の案内・アルバイトの斡旋等多岐にわたっております。

本年度から別科上級クラスの学生は、16単位を限度として学部授業を受講・単位認定が可能となり、それらの学生が本科に進学した際は事前修得単位として認定することとなっています。

留学生受入れにはまだ多くの課題があります。教育面の支援においてはチューター制の導入・日本語能力1級試験等の資格取得講座の開設や地域交流の一層の充実、経済面や生活面の支援では奨学金制度の充実・アルバイト先の開拓、進路支援では大学院進学を含めた国内外の進路相談の充実・海外OB同窓会の発足などが喫緊の課題と言えます。

日本に憧れ、日本を学びに来る多くの外国人留学生に対し、本学は日本人のこころを忘れることなく、留学生とともに寄りそい協働しながら21世紀の地域・未来を切り開いていきたいと考えております。



福島大学大学祭



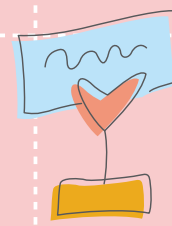
飯坂ロータリー 国際交流フェスティバル



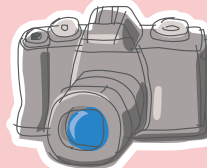
国際親善委員会 向陽町内会



伊達市国際交流協会 さくらんぼ狩り



防災訓練



交流風景

—思い出のアルバム—

●推進会議の活動●

■福島県留学生交流推進会議及び
同運営委員会総会

●平成19年1月25日(木) チェンバ大町

県内各地から19機関が参加し、平成18年度の事業報告並びに平成19年度の事業計画を審議承認された。また、文部科学省高等教育局学生支援課留学生交流室長から留学生交流の意義、現状、課題等について説明があった。

■留学生担当教職員研修会

●平成19年9月13日(木) チェンバ大町

この研修会は留学生関係業務の理解を深め、担当者の資質向上と各機関の情報交換を目的として毎年開催されるが、今年度は県内の高等教育機関、県、市及び国際交流団体から19名の留学生関係業務担当者が参加した。

また、福島学院大学准教授呂学如氏を講師に招き、「架け橋になる夢の実現を！～私の留学体験から～」と題し、自身の日本への留学体験と日本での生活や仕事についてのお話をいただき、留学生にとっての真の支援とは何かということを考えさせられる内容であった。

講演のあとは、各機関の情報交換を行い、留学生の生

活支援や就職支援等についての取り組みや問題点、国際交流についての意見交換が行われた。

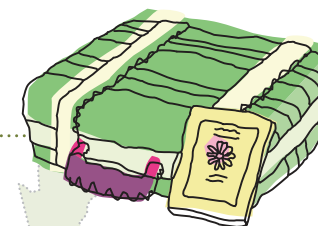
■第14回福島県留学生日本語弁論大会・
国際交流のつどい

●平成19年11月17日(土) 福島市ウェディングエルティ

福島県内の高等教育機関に在学している留学生6カ国11人が言葉・文化・生活などをテーマに体験談を留学生ならではの視点から発表、厳正なる審査の結果福島大学行政政策学類の楊雯雯さん(中国)が「桜の国に来ました」と題しスピーチを行い優勝した。他の入賞者、詳細については10・11ページのとおり。

スピーチの後、引き続き交流のつどいがあり、すぎのめYOSAKOIのみなさんによるよさこいが披露された後、参加者も加わり会場一体となって踊りの輪が広がった。また参加者全員が各チームにわかれてクイズ大会を行い、盛況のうちにより一層交流が深められた。

■外国人留学生の受入状況調査実施

■福島県留学生交流推進会議会報
「福島県の留学生」17号発行— 平成18年度 —
[推進会議の活動]The Voice!
留学生の声陶芸で
考えさせられたこと

福島工業高等専門学校 物質工学科4年

アイミ (マレーシア)

日本に来て最も心に残っている経験は、陶芸の授業だ。陶芸は簡単に見えるが、実際にやってみるとむずかしくて、最初はつまらないと思ったが、先生のおかげでだんだんできるようになり、おもしろいと感じるようになった。まず、土のことを習ったが、陶芸で最も大切なのはよい土を使うことで、特に京都から持ってきたものが一番いいそうだ。

完璧なものにできあがるまでに、ろくろで形を作るとか、削りとか、絵付けとか、いろいろな手順があるが、ろくろで形を作るときが一番楽しかった。最初に太田先生がやって見せてくれたが、目を閉じて両手で茶碗を作っている先生の姿は本当にかっこよかった。

周りが静かでろくろの回る音だけが聞こえていたので、私も自然に心が落ち着いた。

そして、陶芸の授業を受けているうちに、陶芸は私たちの人生に似ていることに気がついた。たとえば、頑の中では大きなお皿を想像していたのに、実際に作ってみるとどうしてもその通りにはならなかった。私の国マレーシアには「人間は計画を立てることができるが、その結果は神様の手の中にある」ということわざがある。これは私たちの人生でもいろいろな計画を立てることはできるが、その通りに全てを実行できるわけではないという意味である。もうひとつ気づいたのは、絶対に途中であきらめないという気持ちをもつことだ

った。最初にろくろを使ったとき、何回やっても力を入れ過ぎて変な形になってしまっただけで大変だった。それでも、あきらめずに続けていると、やっと形ができるようになった。そのとき、私は満足した。どんなに小さくても、形がきれいでも、あきらめずに自分の力で作ったものだから自慢できると思った。

陶芸の授業が終わっても、私としては陶芸を学ぶことをこれで終わりにしたくない。もっと深く勉強したいと思っている。とくに絵付けのときに使った色に興味をもっている。

陶芸ではうわ薬をかけるときや焼くときに、さまざまな化学反応が起きているが、物質工学科の学生としてそのことが気になっている。また、陶芸の授業を受ける前にはあまり意識していなかったことを考える機会があって、よかったと思っている。



Malaysia



捕鯨には反対、 でも「I♥JAPAN」

福島大学 行政政策学類

ケント ブロア
(オーストラリア)

「I♥JAPAN、だけど捕鯨が私の心を打ちひしぐ」と書かれた抗議を2007年のバレンタインデーに見たことがある。これは多かれ少なかれ私の日本における体験を要約している。

私は、オーストラリアから福島大学へ一年間の留学生としてやってきた。来日当初、居酒屋で行われたポーランド人とのコンパに行き、そこで、鯨肉を初めて勧められて、非常にびっくりした。私は、激しく断ったので、他の人は途方にくれていた。ポーランド人は、日本に住んでいたら、日本の文化を認めるべきだと論じたが、私は賛成できなかった。実際、私は日本の文化がすっかり気に入っている。季節の移り変わりに応じた祭りといい、日本人の礼儀正しすぎることや名誉を重んじる心に触れることが楽しい。私は東北に一目惚れした。毎月、温泉に行っており、日本のアニメと漫画を愛してやまないようになった。神道と仏教の間に調和があることは、国民の平和を反映していると思う。日本人のヒエラルキーへの尊敬さえも慣れた。

ところが、日本の文化を認めるために、全ての習慣を認めるまではないと思う。

完全無欠な文化は存在しないし、社会と同じように文化は不変ではないものである。捕鯨は日本文化の必要な部分ではないと思う。特に、日本によって行われている南洋捕鯨は長い歴史を持ってなく、日本文化の一部ではないはずである。

私の捕鯨に対する態度が分からなくて、感情的な人にすぎないとはねつけた人もいる。しかし、そんなことはないと思う。実例を用いて説明しよう。大学の授業における私の学友は「牛肉の食事と鯨肉の食事

はどう違うのか」と尋ねた。「相違は簡単だと思う」と答えた。第一、全てのクジラは絶滅の危機にあるとは限らないにもかかわらず、大多数のクジラ種は商業捕鯨が始まった1800年代と同じ頭数にまだ回復していない。その上、最近、日本は絶滅の危機にあるクジラ種を捕り始めた。第二に、クジラの殺し方は非人道的なものである。国際動物保護ファンドの報告によると、南洋で80%のミンククジラが死ぬには10分から33分までかかる。つまり、牛は絶滅の危機にないし、即座に死ぬというわけだ。

2005年から日本は絶滅の危機にあるクジラ種を捕り始めて、2007年からはオーストラリア人に愛されているザトウクジラを捕獲し始めた。その間、日本の人々は世界の否定的な反応について全く知らない。オーストラリアの新たな首相、ラッド首相はオーストラリアの領海にいるクジラを守るために海軍を動員すると言ったし、最近、オーストラリアにいる友達は「日本の車を買いたかったが、今、捕鯨をしているので絶対買わないようにする」と言った。日本捕鯨船団が南極海へ出発したとき、驚いたことに両親は私に留学先として「もっと人道的な国を選んだ方がよかったのでは」と言った。「そうじゃない!」と私は答えたが、全てのオーストラリアの家族に日本を理解している子供がいるとは限らない。捕鯨で日本はそのような悪評を得ていることを大多数の日本人は知らないようだ。捕鯨に反対する者は絶望的になっており、最近、日本による南極海での捕鯨が急増しているので、この問題はこれから大きな問題になるだろう。これからも私は捕鯨に反対し続ける。しかし、それでも「I♥JAPAN」の気持ちは変わらないと思う。

Australia



すばらしい日本

福島大学 共生システム理工学類

ゲン ティトウ
(ベトナム)



私は高校生の時代から日本に留学したいという夢を持っていました。チャンスを得て、その夢が現実になりました。日本に来る前に日本は科学技術が極めて発展し、経済が活発する国だけ気に入りました。しかし2年間日本に住んで、日本の文化や日本人の心など日本の様々なことも気にするようになりました。

日本の自然風景がとても美しいのは初めて感じたことです。春から夏まで日本が緑色に覆われています。その間3月から5月まで時間とともに沖縄から北海道にかけて日本は桜の列島になります。初めて桜を花見に行ったときにとても驚きました。人々は桜の陰でお酒を飲んだり、話したりしながら桜を見ることは本当に最高の気持ちです。そして秋になると緑をかわりに紅葉に覆われています。冬になって真白くなります。本当に美しくてたまらない風景です。

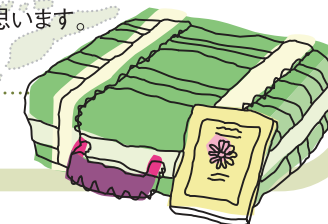
私にとって日本の文化は人間と自然の深い結合であるだろうと思います。先進国いかにかわらず伝統的な文化や精神が守り続けられています。夏といえばお祭りというものです。全国で様々な伝統行事が行われています。日本は生気に満ちになり、人々はお祭りに熱情に参加し、楽しい日々を過ごしています。私は盛岡の「さんざ通り」と福島市の「わらじ」祭りに参加しました。今まで楽しかった雰囲気が残っています。

最初日本語を勉強した時一番難しいのが敬語と

謙譲語であることを思い出しました。しかし勉強すれば勉強するほど好きになりました。それは日本の礼儀です。相手を尊敬し、自分を謙譲するというのは日本の礼儀の文化の特徴だと思います。

私は日本に来てからというもの東北地方に住んでいます。東北の人々の心が暖かいという深い感じを持っています。前盛岡に住んでいた時も今福島にも保証人をはじめ学校の先生方や日本人の友達に大変お世話になりました。心から感謝の気持ちで一杯です。今年初めて福島大学にベトナム人留学生が4人入りました。私達は、日本は寒いですが心が暖かいという●感があります。暖かい雰囲気に囲まれているので私達は家族に離れている感じや寂しい感じも薄くなりました。

日本にいる時もっと日本文化を学びたいし、ベトナムの文化を皆さんに伝え、日本の文化と交流したいと思います。将来科学技術の場面でも日本とベトナムのかけ橋になりたいと思います。



Vietnam



The Voice!
留学生の声

私の オーストラリア遊学

福島大学 教育学部 言語表現系コース

山崎早苗 (日本)

私2006年2月から
の1年間、オーストラ

リアのブリスベンにあるクィーンズランド大学へ福島大学からの交換留学生として留学してきました。その都合で卒業は1年延び、現在大学生活5年目となります。

さて、英語圏への留学を終えて帰国すると、誰もが口をそろえて「英語ペラペラになった?」と聞きます。私はそのたびに「なってないびよん」とおどけて答えます。本当に語学力が上達していないかどうかはさておき、私が言いたいのは、語学力なんかよりもっと素敵なものを得て帰ってきたのだということなのです。語学をほったらかしにして1年間も何をやってたのか。胸を張って言いますよ、「遊んで」きたのです。私がどんな甘い1年を過ごしたのか、何を学んだのか、これから少しだけご紹介いたします。怒らずに、読み進めてください。

私は渡航して最初の半年を大学の敷地内にある寮で過ごしました。オーストラリア人はもちろん世界各国からの留学生に囲まれ、友達作りもスムーズに行きました。遊びの誘いも毎日のようにありました。もちろん社交辞令ではありません。しかし同時に、授業や課題もこなさなければなりません。しかも、私にとっては慣れない英語環境で。それなのに、周りのみんなは驚くくらい遊び歩いているのです。一体みんな、いつ勉強しているのか疑問でなりません。そして発見したのは、彼らは本当に時間の使い方が上手いということです。私が出会ったオーストラリア人には勉強を理由に遊びの誘いを断る人はほとんどいませんでした。どちらか一方を選び頑張るのではなく、両方を全力で楽しむ。そのために、時間のメリハリをうまくつける。オーストラリア人はのんびり屋だとよく言われますが、そう

いったイメージでは私は逆であると思いました。そういうわけで、ほどなく

して私の目標は「遊びの誘いは断らない」となったのです。

留学生活も残り半分となった頃、私は寮を出て友人3人でアパートに住みました。大学や寮から離れることでそれまでの交友関係をさらに幅広くしたい。そして、だまっていたも向こうから物事がやってきてくれるという環境から、今度は自分から能動的に動き選び取って生活したい、という想いがあったからです。少し住む環境を変えるだけで、通学路は変わり、買い物をする場所も変わり、生活のリズムまで変わりました。それだけで、それまでと違ったブリスベンの姿が見えました。前期よりも街を散歩する時間が増えました。

そうしていくうちに、元々音楽が好きな私は自然と音楽の鳴る場所へ向かい、音楽を通してブリスベンのヒッピーたちや音楽家たちと交流を持つようになりました。大学では出会えない、不思議な空間がそこにはありました。ヒッピーというとはまりいいイメージを持たない方もいらっしゃるでしょうが、つまりは単純に自然を愛し、土着的な生活をする人たちのだと私は思います。彼らとの出会いによりオーストラリアでの生活にまた新しい色が付きました。純粋に好きなものを思い出し、ゆっくりした時の流れを素直に楽しむことができました。

長々と私がどんな環境でどう遊んだかのみを綴ってしまいましたが、もちろん合間に勉強もしましたし、オーストラリアという代表的な多文化共生主義国だからこそ学べたこと、気づいたことも、たくさんあります。しかし、あえてそれらについては一切書きませんでした。なぜなら、当然の事ながら1年間で学ぶことは本当に人それぞれだからです。ただひとつ言えるのは、1年あれば意外と色んなことができるということです。私は何よりも、普通は4年で終わるはずのこの大学生活に1年の猶予を持てたことに感謝しています。この1年、遊びに集中し、素直な自分に向かい合うことで、自分にとっての大切なものを見つめなおせました。そして将来の夢を見つけることができました。遊びきったこの1年、悔いはありません!



Japan

The Voice!
留学生の声

ツルツル食べる うどんからの発想

東日本国際大学 留学生別科

孫 瑜 (中国)



「日本人は、唇一歯一舌一喉と、すべての器官を使ってツルツルと麺を食う」と、この間、勉強した文章で読んだ。目から鱗が落ちる思いであった。やっと日本人の緻密な心の描写が目飛び込んできたからだ。私はうれしくてたまらなかった。誰かきくと質問があるだろう。「なぜ、そう思うの?」と。私の答えはこうである。せっかく日本に来ているのに、もう一年も過ごしなが、日本人の心をうまく形容できないでいた。日本へ来て初めて「水割り」というものに驚いた。なぜわざわざ、おいしいお酒を薄めてしまうのか。日本人と自由に話をしても、何でこういう気配りをするのか、ぜんぜん分からないことがよくあった。それが、この文章に出会い、今やっと日本人の心を的確に形容することができたのだから、うれしくてたまらないのである。

つまり、日本人は「細」なのだ。日本人の発想はすべて「細」から始まる。この「細」こそが日本の発展の根本にある。その根本とは、日本人の礼儀正しさ、物品を使いやすく加工することなどなど、あらゆることに根ざしている。

私は、ただただこの文章の一節から、一年間悩み続けたことが解消された。

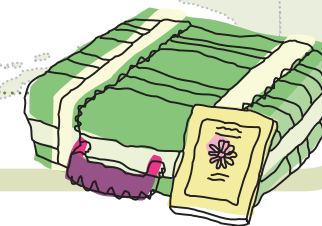
日本では、女子トイレへ入ると、いやな音をもって制する「音姫」という機域がある。



アイスクリームには必ず「あけ口」がついている。駐車場には、絶対と言っていいほど車いす専用駐車スペースがある。これらすべてが、ツルツル食べるうどんからくる日本人の「細」に由来するのだ。うどんを、五官すべてを使って食べている日本人は「細」の人だ。

日本にいる間は、「細」という日本文化をよく受け入れて、そのマナーを守っていききたい。郷に入っては郷に従え。もしかすると、私もある日から突然礼儀正しく生活をきちんとすごせるようになるかも知れない。

いわきの町中のあるラーメン屋で、ツルツル音を立てて食べている異邦人。それは中国人の私だ。



China

福島県留学生 日本語 弁論大会

第13回

福島県留学生弁論大会

平成18年11月18日(土)、福島市のウエディングエルティで開催されました。

8カ国16人の留学生が留学生生活を通じて感じたことなどをテーマに体験談などを発表しました。また、アトラクションとして福島ふる里民謡協会による『相馬流れやま』、『いわきじゃんがら』などが披露され一般参加者と留学生が交流しました。



福島県留学生日本語弁論大会審査結果

優勝

福島大学
李 寧 リネイ(中国) ●演題 「日本人は理解できない」

準優勝

東日本国際大学
孫 瑜 ソンユ(中国) ●演題 「内モンゴルのトマトが日本でサラダになる」

第3位

東日本国際大学
宋 承桓 ソンスンファン(韓国) ●演題 「もっともっと感じたい」

福島県アジア友好協会特別賞

東日本国際大学
劉 玉翠 リュウギョクス(中国) ●演題 「ことばの魔法」

福島県アジア友好協会特別賞

福島大学
富丸慧利紗 トミマルエリサ(ブラジル) ●演題 「私の思い出」



第14回

福島県留学生弁論大会

福島県内の高等教育機関に在学している、留学生による日本語弁論大会が11月17日、福島市で福島県留学生交流推進会議(事務局 福島大学)の主催により開催されました。参加者は、言葉・文化・生活などをテーマに体験談を留学生ならではの視点から発表し会場を盛り上げました。今回は福島県内の高等教育機関から11名が出場し、福島大学行政政策学類の楊雯雯さん(中国)が、「桜の国に

来ました」と題してスピーチを行い優勝しました。

また、アトラクションとして、すぎのめYOSAKOIのみなさんによるヨサコイが披露された後、参加者も加わり会場一体となってヨサコイ体験をしたほか、参加者全員が各チームに分かれてクイズ等を行い交流を深めることができました。

福島県留学生日本語弁論大会審査結果

優勝

福島大学
楊 雯雯 ヨウブンブン(中国) ●演題 「桜の国にきました」

準優勝

福島大学
玄 姫 ゲンビ(中国) ●演題 「原付を助けて下さい」

第3位

東日本国際大学
ゾウレイ (ミャンマー) ●演題 「満ちたポットも満たしてくるもの」

福島県アジア友好協会特別賞

福島学院大学
バルティエワ マリカ ●演題 「日本の子育てについて」

福島県アジア友好協会特別賞

福島学院大学
白岩明子 シライワアキコ(ブラジル) ●演題 「ブラジルと日本の生活」



皆さん、こんにちは。発表する前に、まず皆さんに一つのなぞなぞ問題をあてていただきたいです。きのこが大好きな中国人の女の子がいます。その女の子の名字はなんですか?答えは「李」です。

この女の子は私です。私は李寧と申します。李は上が木の字で下が子の字と書きます。寧は「丁寧」の寧です。私は日本に来て3年ぐらいになりました。日本の生活はたいたい慣れましたが、日本人に対してなかなか理解できない事はたくさんあります。今日はこれについて発表させていただきますと思います。

まずどうして日本がいつも「すみません」「ごめんね」とあやまるのか中国人の私にとって理解できません。ある日私は日本人の友達と一緒にご飯を食べにきました。ジュースをお替りしたいので、店員さんに「すみません、ジュースをください」と言いました。友達が私に「ごめんね、気づかなくて」と言いました。その時、私は友達がやさしい人だと思いましたが、自分がどんな返事してよいのかわかりませんでした。日本に来たばかりの時、ある日、電車に乗りました。電車の中にはすごく込んでいたので、隣の人の足を踏みました。すぐに「すみません」と謝りました。同時に相手も私に「すみません」と言いました。瞬間的に頭が混乱して、人の足を踏んだのか、踏まれたのかわからなくなりました。今の私は人に足を踏まれても「すみません」と言います。なぜかというといわないと、相手に怒っていると思われるかもしれないからです。「日本はいつも謝るのは、日本は小さい国なので、人に憎まれたら、逃げるできないからです。」と日本語の先生におしえられたことがあります。しかし、私は日本人が優しいから、そんな小さい事で、人を憎む事がないと思います。また、日本の若者のファッションが私は理解できません。真夏のなのに、糸で編むんだ帽子をかぶっています。かわ

日本人は理解できない

福島大学 経済経営学類

李 寧

リ ネイ (中国)



いいけれど、暑くないですかと聞きたいです。よく熱中症にならないと思います。男性たちはもっとおもしろいです。ジーパンをパンツが見えるまで低く穿いて、どこかっこいいのか私はわかりません。しかし、あんな穿き方で歩いていることがすごいと思います。一番すごいのは日本の女性です。どんなに寒くなくても、スカートを穿いています。特に高校生たちです。もともと短いスカートをわざと短くします。風が吹くと、すぐパンツが見えます。日本の若者がパンツを見せるのは好きみたいです。

そして、日本人はいつもほめることが理解できません。日本に来たばかりの時、私はおばの家に泊まりました。時々おばの友達が遊びに来ます。その時「こちらはめいっこです」と私を友達に紹介します。「そうですか、かわいいですね」とその友達が言いました。私は始めて日本人に褒められたから、とてもうれしかったです。しかし、ある日、その友達は私の前に私がぜんぜんかわいくないと思っている人を「かわいいですね」と褒めました。その時、すごくショックでした。ここにいる日本人の方は中国人の前に、人をほめる時、注意したほうがいいと思います。今の私は日本人に褒められたら、ちょっと笑ってすぐわすれてしまいます。いやな気持ちがぜんぜんないですけど、うれしい気持ちもだんだん少なくなっています。

日本に対して理解できないことはまだまだたくさんあります。今後の留学生活の中でわかってくるかもしれません。ずっと理解できない可能性もあります。しかし、こうすることで、日本人が中国人と違うことをわたしはいろいろわかりました。これもわたしの留学生活の中に大切な収穫だと思います。以上です。ご静聴ありがとうございます。

モンゴルのトマト、日本でサラダになる

東日本国際大学 留学生別科

孫 瑜

ソンユ (中国)



ある人がかつてこんなことを言いました。「トマトに塩を加えたらサラダになります」と。今の私は、おそらくサラダになったトマトです。日本から、私は生命の塩をもらいましたので。

初めて日本の土を踏んだ時からすでに半年あまりになります。日本に来たばかりの頃、環境の変化は想像していたより驚くに足るものではなかったことを覚えています。これまでの環境と取って代わって現れたのは何とも静かな雰囲気でした。これに対して、私は取り立てて何も感じませんでした。変わったと感じるとしたら、それは周りの人の話し声だけでした。塩に出会ったばかりのトマトは、自分がサラダになるであろうとは思いませんでした。

勉強の他、日本をいっそう理解しようと思い、私はアルバイトをすることにしました。アルバイトはお寿司屋で始めました。サラダになりたいトマトは必ず塩に近づかなければならないのです。

アルバイトのおかげで、教室では知ることができない奇妙な日本の習慣にたくさん出合いました。

たとえば、もともと日本では寿司を食べる時必ずみそ汁を飲みます。不思議なことに、日本では、飲みきれなかったお酒をその後も続けて飲みます。それは長い時間が過ぎた後でも大丈夫です。酒の瓶にただ名前を貼り付ければそれでいいのです。おもしろい習慣です。後で日本人に聞いたら、これはボトルキープというのだそうです。中国にはない習慣です。

お客さんがお店でお酒を飲む時、なんと水や氷を加えます。私が見たところでは、アルコール度数は最高でも26度未満です。こんなに薄めたらもうお酒ではありません。せっかくのお酒を水にしてしまうなんてもったいないですね。それからそれから。

これらのことは、私は中国では見たこともないことばかりです。今でもある人は私に聞きます。「あなたは日本に慣れましたか」と。今では私の答えは「いいえ」です。しかし、もうすぐ適応できるでしょう。なぜなら、現在の私は多くの日本

に関することを理解し、受け入れましたから。

トマトは塩に向かって、心の扉を開き、塩の世界の多種多様性を発見しました。

実はほんとうに、私に日本というものを深く感じさせたことは、私の黄色い靴下をめぐることからでした。いつもと同じように、店に行き制服に着替え、開店の準備をして、店員同士でおしゃべりをしていました。その日、私には思いにもよらないことが起きたのです。店員仲間が男女とはず、私の黄色い靴下を見て大笑いしたのです。日本人とはそもそも礼儀正しい人々なのに、どうしてこんなに笑うでしょう。私は理由を聞きました。彼らは口々に「こんな黄色い靴下見たことない」と笑うばかりです。みんなが笑ったことについて、私はもはや怒るところか、とても感謝の気持ちがわいてきました。環境が変わった、人も変わった、そして習慣も変わったのだということを私に心底から理解させてくれたのですから。

私たちはみんな同じ黄色い皮膚なのに、たった一足の靴下から自分がどの民族に属するのかを見いだすことができます。環境に適用するために、私は黄色い靴下をやめて黒い靴下をはくようにしました。私が見たところ、黒い靴下をはいている日本人が多いのですから。

日本の生活は今もなお続いています。新鮮なことはまだまだ起きています。私の経験も次第に、私が羽ばたくための翼をより充実させてくれています。今、私は、日本人の毎日の規則正しいあいさつにも驚きません。お酒に水を加えることにも驚きません。本で読んで知っていた事柄を私はここで実際に修得しました。私は、日本の留学生活で得た豊富な経験、学んだ知識で、すばらしい未来を造りだし、人々のために貢献できるようにしたいです。

トマトはちょっぴりしょっぱい塩になじむと、おいしいサラダとなって、すぐに本来のおいしさもより引き立てられます。これからいろいろな味の塩にもまれて、いっそうおいしいサラダになっていきたいです。



桜の国に来ました

福島大学 特別聴講生（河北大学交換留学生）

楊 雯雯 ヨウブンブン（中国）

私が日本を好きになったのは桜を知ってからです。大学一年生の時、「世界映画の発展」という授業で、私は初めて、日本の映画を見ました。岩井俊二さんが監督する「四月物語」という短い映画です。松たか子さんが演じる卯月は片思いの先輩のために故郷の北海道から東京の武蔵野大学に進学するストーリーです。ちょうど、四月で、桜が満開になる季節です。東京の街にある桜が、そよ風に吹かれて、花びらがひらひらと舞っている場面はとてもきれいでした。私はそのとき、「素敵！機会があれば、ぜひ日本に行きます」と思いました。

そして今年の四月一日、私はやっとこの桜の国、日本にきました。その日は風が強かったので、ちょっと寒いと感じました。でも、樹はもう緑になっていて、花も咲いていました。遠いところを見ると、桜はピンクの霞のようです。感じがいい国だなあと、私はつぶやきました。

今日まで、私は日本で七ヶ月ぐらいを過ごしました。その中で、桜が日本人の心の中で占める割合をもっと理解することができました。

日本人は桜に関心を持っていて、それは春に起こっている戦争のようです。国民は新聞を読んで、テレビを見て、桜の軍隊はいつ大阪に着くか、京都に着くか、東京に着くかと気にしています。「桜前線はますます近くなりました。もっともっと近くなりました。予定より桜前線の上陸は遅くなりそうです。」というような報告はどんどん出てきます。一つの桜はいたずら好きの子供のように、こっそりと咲きたいときでも、すぐ人に発見され、新聞とテレビで報道されてしまいます。

だから、満開の時には、日本国民は家族や、友達、恋人などと、花見をします。みんなはピンクの花の海洋の中で、弁当を食べたり、酒を飲んだり、歌を歌ったり、踊りを踊ったりして、交流をしながら、桜を楽しんでいます。その楽しさを言葉で表すのはなかなか難しいです。

人間の生命は桜の季節のように短いです。だから、桜のようにきらびやかに生きているはずです。桜が咲いて

いる時期は短いですが、だからこそその一生で一番美しいのです。日本人はそう思っています。

人々にとって、花見は春に欠かせないものとなっています。同じように、花見には食べ物や酒、時間を共有する仲間が必要です。さらにその仲間である家族、友人、恋人には愛も必要です。日本人はこう簡単なのかもしれないと思います。私はこの桜の国において、春に咲く桜のようにきらびやかに一生懸命生きたいと思います。

四月で、桜で、南風で、そして多彩な四季で、日本民族の精神を醸造しましょう。



原付を助けてください

福島大学 行政政策学類

玄 姫 ゲンビ（中国）



ただいまご紹介をいただきました福島大学行政政策学類三年の玄姫と申します。

ここにいる皆さんの中では、原付免許を持っている方が多数いると思います。原付免許を持っている方が私と同じ思いをしているのかはわかりませんが、私は「原付は本当にかわいそうなやつだ」と思います。歩行者と自転車を除けば、原付は最も交通弱者であるといえます。なぜなら原付は車に接触するだけで容易に転倒し、衝突した場合よほど運がよくなければ無傷では済みません。そして、並行する大型車の巨大なタイヤを横目に、「死」と向き合いながらの運転を強いられているのが原付なのです。

原付の法律で決められる制限スピードは時速30kmです。私は、原付に乗った初日だけ制限スピード30kmhを守り、それからは守ったことがほとんどありません。なぜなら、遅すぎるからです。原付で飛ばしているあなた、一度、30kmhキープで走ってみてください。「こんなスピードで乗られるかよ、ふざけるな」とストレスがたまっていくはず。実際、このスピードを死守したら、回りにとっては迷惑極まりないことです。特に、横を猛スピードで車が走り抜ける瞬間が最も怖いです。だからといって、飛ばしたらスピードメーターについている速度警告灯が、ご親切に35kmhを超えたら、ウルトラマンの「カラータイマー」のようにピコピコ点滅して目障りで仕方がありません。他の国の原付バイクの速度規制と比較してみると、日本の制限速度は最も低いものです。ニュージーランドとカナダでは約80kmh、カリフォルニア州、ミシガン州とオンタリオ州では約50kmh、フィンランドでは45kmh、インディアナ州では約40kmhであります。原付の制限速度を日本と同じく30kmhで規制している自転車大国と呼ばれているオランダでも、原付は自転車道を走ることができます。しかし、日本では、交通機関の精鋭部隊白バイさえ原付の取締りに積極的です。大抵の人はアクセル全開で走っているでしょう。時々、私は、スピードを出しすぎて後ろのバイクが全部白バイに見え、いきなりスピードを落とすことがありますが、基本的にはアクセル全開で走っています。しかし、それは、律儀に法定速度を守るより、法を犯してでもある程度スピードを出したほうが、車の流れに乗れるという意味で安全だからです。実際のところ、法定速度で走っている車両は少ないでしょう。規制されている法律が守られていなければ、それは単なる骨抜き法律でしかありません。法は、その形式だけではなく、その内容と道徳の共通性・連続性に従って、定められなければならないと思うのです。白バイなどは、都合のいいときにしか見回りをせず、規制を守らないやつには罰金を科し、点数を引きますが、それだけで交通事故が減るとは限らないし、規制を守らない人が減るとは限らないと思います。ならば、法定速度を上げたほうが良いのではないかと思います。また、法定速度を上げれば、車の運転手にも無視されることが減っていくでしょう。親切に先道をあげても無視されたことや、目の前の交差点の信号が青だったのににもかかわらず、後ろから左折する車にいきなり追い越され、慌てて急ブレーキをかけて事故を防いだことや、優先道路を走っていたのににもかかわらず、対向からきた右折車にいきなり右折され、慌てて急ブレーキをかけて止めたことは何回もあり

ます。同じことを何回もやられると、次第に腹が立つてくるのは当然。「てめえら、無視しすぎるなよ、そこに車を止めておいて私とタイムンはれよ」と叫びたい場面が何回もありましたが、どうせぶつ飛ばされるのは私に違いなかったのでもめておきました。相手の人が悪い場合でも我慢している日本の社会は、会社から学校の部活、暴走族まで、上司と部下、先輩と後輩という厳格な上下関係で結ばれたタテ社会です。総理大臣を非難するより、むしろ、すぐそばの上司に口ごたえするほうが百倍も難しいのが日本では普通感覚のようです。もし、原付に乗っていた人が私ではなく、彼らの上司であつたとすれば、車の運転手はどうしたのでしょうか。彼らはきっと、笑顔満開で「お先にどうぞ」、「どうもありがとうございます」と追い越しめせず、道を譲ったのでしょう。私の原付速度の理想はプラス15kmhにして45kmhにしてほしいです。僅かなことですが、こうするだけで精神的にゆとりが出て、より原付の安全が保たれるのではないかなと思うのです。

簡単に免許をくれる「原付免許」に課せられたペナルティーの一つとして考えられるのが二段階右折ではないかと思います。二段階右折は原付の右折方法（二段階）標識のある道路や、車両通行帯（右左折のための車両通行帯も含む）が3つ以上ある道路、信号機などにより交通整理の行われている交差点で行うものです。原付の安全を保つため、二段階右折の規制が行われたと思われませんが、原付に乗っているあなた、よくこんな恐ろしいことをさせるなあと思いませんか？二段階右折をするときは、左端に寄り右折合図をしなければなりません。一番左端のレーンは直線や左折専用のはずです。少なくとも、右折レーンではありません。しかし、そこを走りながら、右ウィンカーを出したとすれば、後続車は、車線を一気に右へ横切って右折レーンに入り、強引に小回り右折するのだと考えるでしょう。慌てて急ブレーキをかけるものです。そんなことをしたら、さらなる後続車と玉突きを起こすなど大事故につながりかねません。この理由から、私は一回も真面目に二段階右折をしたことがありません。二段階右折をするときに右ウィンカーは絶対出さず、対向車の動きに注意して右折をしています。なぜなら、命にかかわるからです。それなら、左ウィンカーを出したら良いと思うでしょう。そうすれば、対向の右折車が勘違いを起こして右折してきたら、交差点の真ん中でぶつかる可能性が大きい。実状から逸脱したこのような法律、そもそも、なぜ原付だけ右折方法が違うのか理解しがたいところあります。「お役人さん、願いますから法律を作るときは、少しでも良いから原付に気を配ってください」と言いたいところです。

朝が弱い私は雨と雪の日を除き、いつも原付に助けられ、一コマから無事に授業を受けることができています。車の運転手には、原付は単なる唯一のエンジンがついている自転車に思われ、無視されているかもしれませんが、私にとっては、原付は他の車と比べものにならないベンツのような存在です。本当に原付はかわいそうなやつです。どうか原付を助けてください。

以上でスピーチを終わります。ご静聴ありがとうございました。

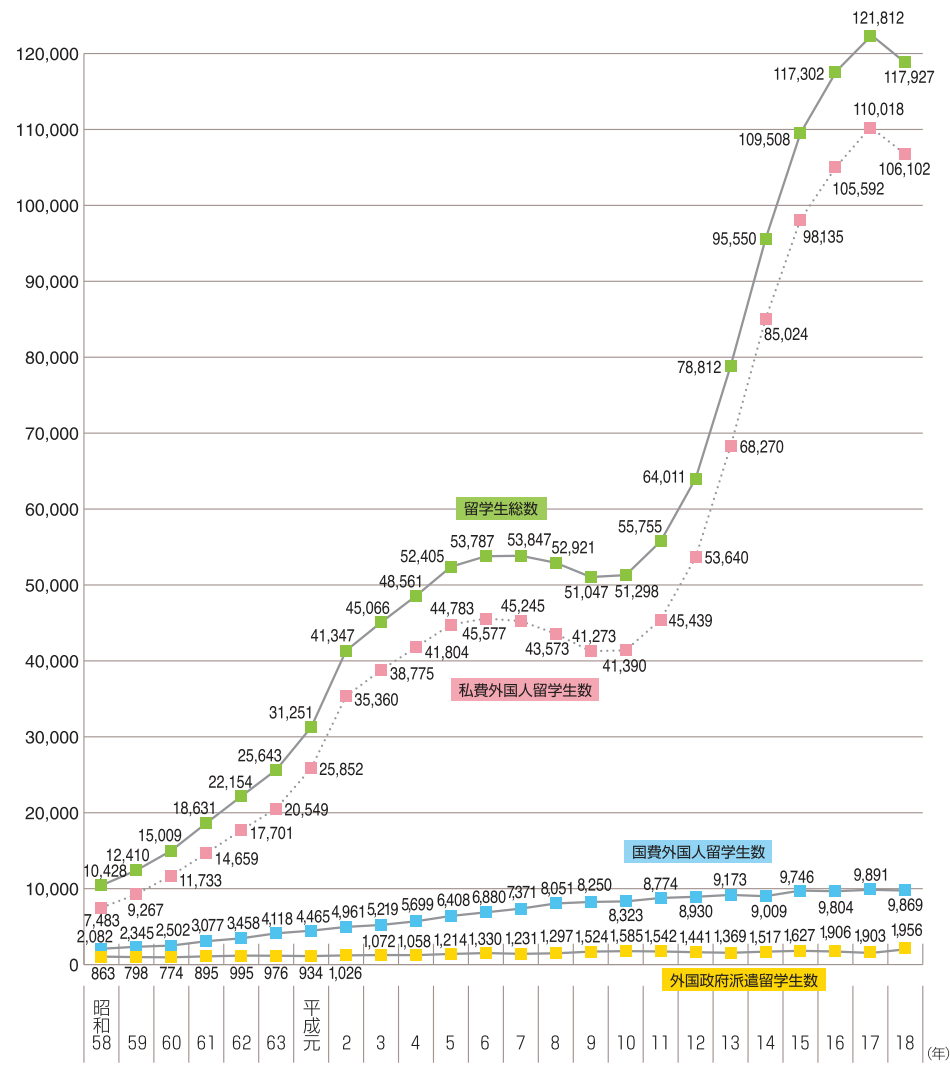
留学生関係資料

外国人留学生受入れの現状

我が国の大学等で学ぶ留学生は、平成18年5月1日現在117,927人で、平成17年に比べ3,885人（3.2%）減少した。これを出身地域別に見ると、我が国の地理的、文化的状況もあり、アジア地域からの留学生が全体の約9割を占めている。

また、我が国の日本語教育機関で学ぶ学生は、平成18年7月1日現在30,607人で、平成17年に比べ4,747人（18.4%）増加した。出身地域では、中国・韓国及び台湾からの学生が全体の約8割以上を占めている。

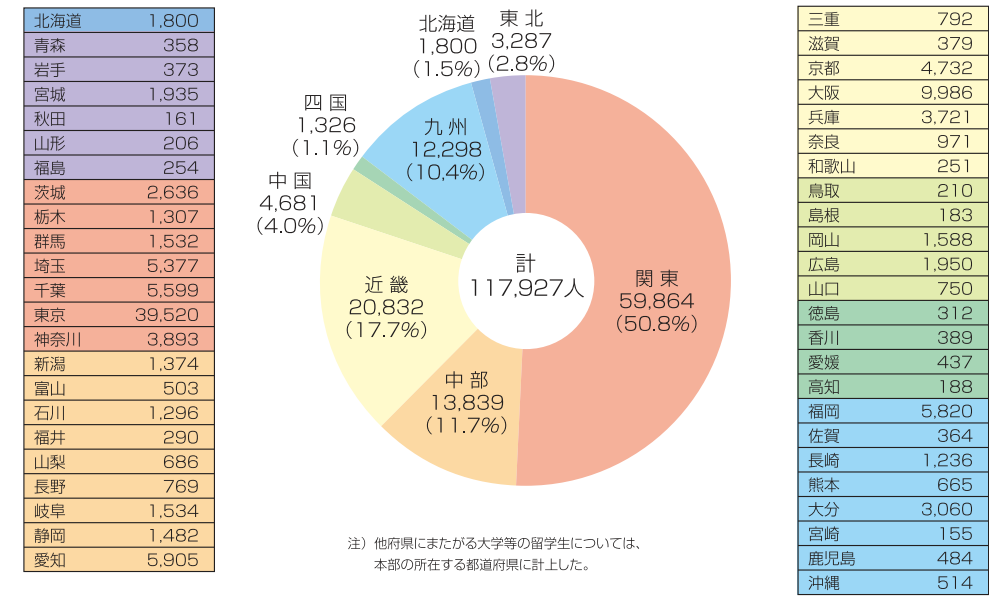
留学生数の推移 大学・専門学校等の在籍者数（各年5月1日現在）



（文部科学省支援課及び（独）日本学生支援機構調べ）

地方別・都道府県別留学生数

大学・専門学校等の在籍者に限る（平成18年5月1日現在）



注）他府県にまたがる大学等の留学生については、本部の所在する都道府県に計上した。

福島県内高等教育機関における

外国人留学生の受け入れ状況

国費・私費別外国人留学生数

（平成18年10月1日現在）

留学生の 区分	留学生の 所属大学等	福島県立 医科大学	会津大学	日本大学 工学部	郡山女子 大学	東日本 国際大学	福島工業高 等専門学校	福島大学	計
国費		2	5				4	4	15
政府派遣							7		7
県費				1				1	2
私費		6	19	4	2	55		131	217
計		8	24	5	2	55	11	136	241

（平成19年10月1日現在）

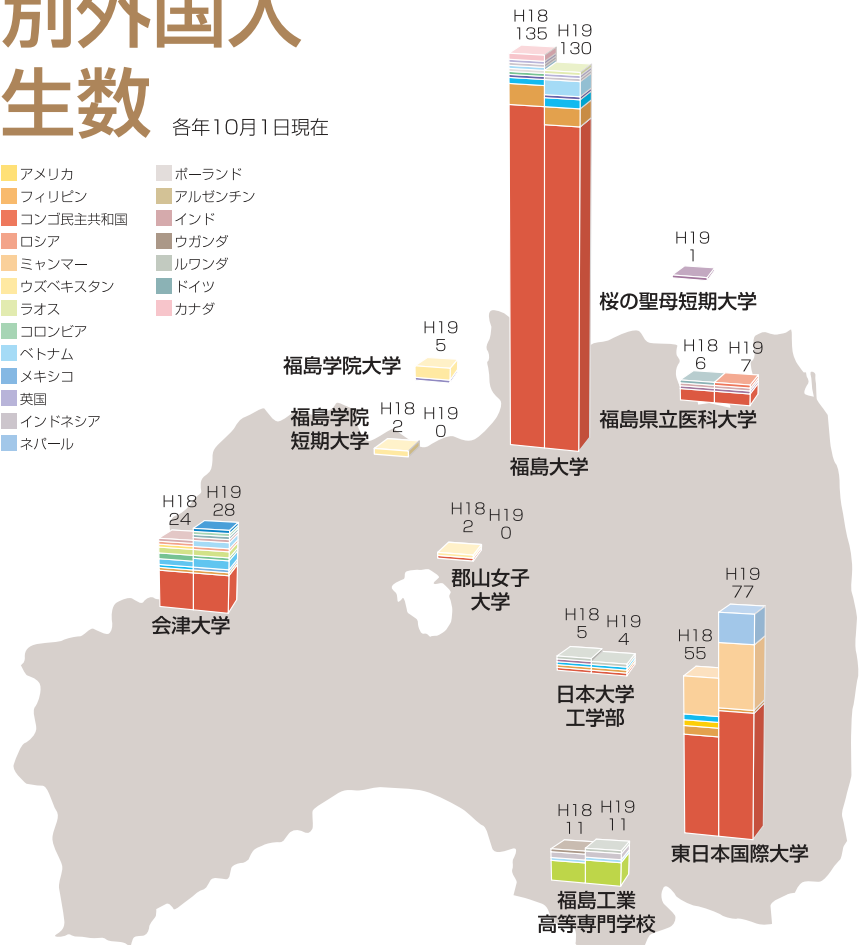
留学生の 区分	留学生の 所属大学等	福島県立 医科大学	会津大学	日本大学 工学部	郡山女子 大学	東日本 国際大学	福島学院 大学	桜の聖母 短期大学	福島工業高 等専門学校	福島大学	計
国費		2	3						4	2	11
政府派遣			1						8		9
県費							1				1
私費		5	24	4	2	77	4	1		128	245
計		7	28	4	2	77	5	1	12	130	266

※留学生受け入れがない大学は、計上しておりません

留学生関係資料

地域別外国人
留学生数

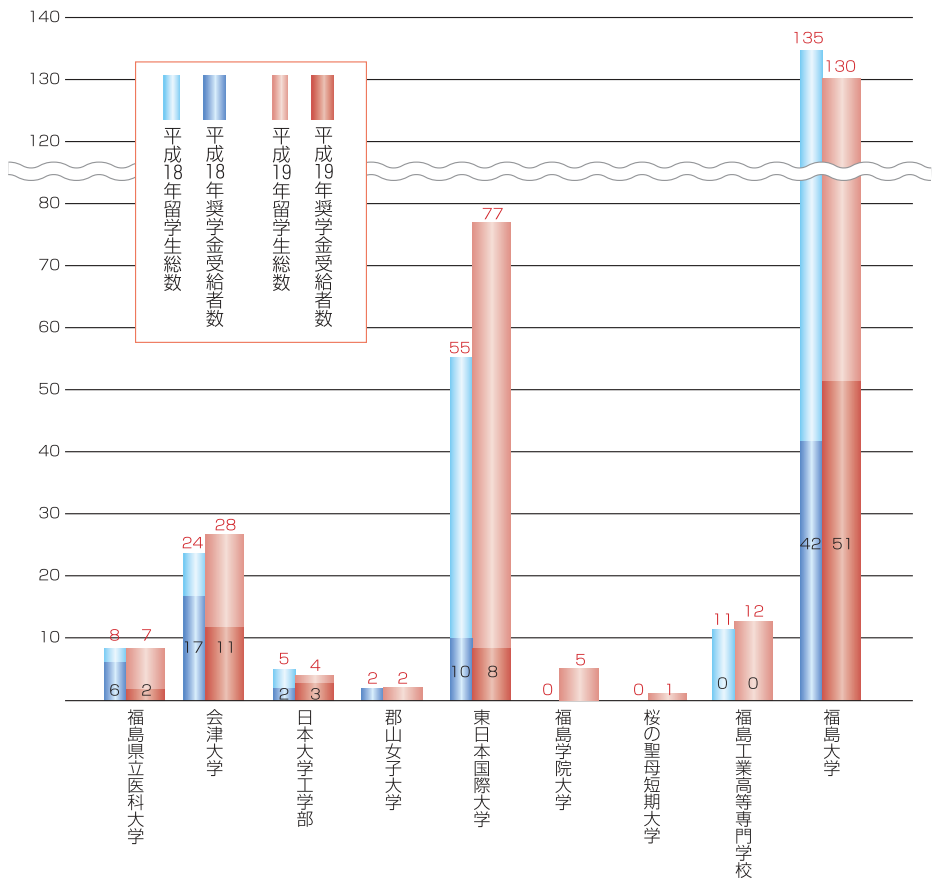
各年10月1日現在



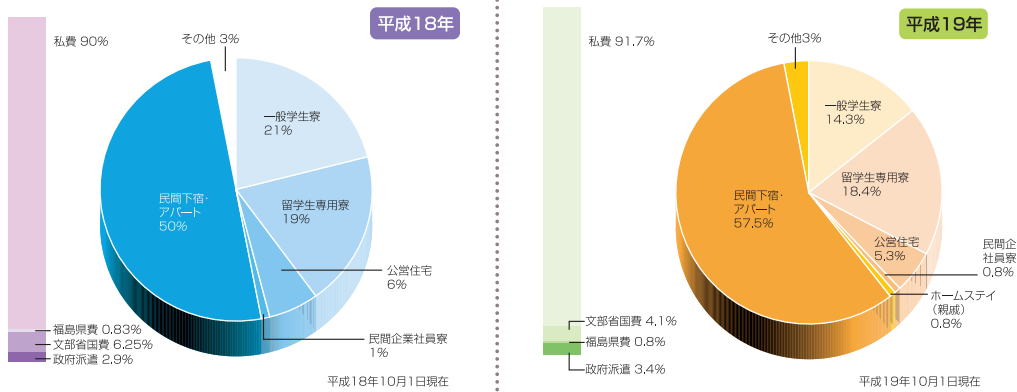
	福島県立医科大学	会津大学	日本大学工学部	郡山女子大学	東日本国際大学	福島学院大学	桜の聖母短期大学	福島工業高等専門学校	福島大学	合 計
中 国	4	13	1	1	44				112	175
韓 国		1	1		1				6	9
マレーシア								8		8
モンゴル			1						3	4
オーストラリア										1
ペルー	1						1		1	2
ブラジル						1				1
香港		1								1
スリランカ		3								3
エジプト		1								1
バングラディシュ		2								2
ロシア		1								1
ミャンマー					22					22
ウズベキスタン				1		4				5
ベトナム		2						1	5	8
インドネシア								2	1	3
英 国									1	1
ルワンダ			1							2
インド	1	1						1		2
ドイツ		1								1
ネパール					10					10
コロンビア		1								1
ハンガリー		1								1
コンゴ民主共和国	1									1
ラオス									1	1
合 計	7	25	4	2	77	5	1	12	130	266

留学生の奨学金受給状況

※留学生受け入れがない大学は、計上していません
各年10月1日現在



留学生の寄宿状況



平成19年度 福島県留学生交流推進会議構成員・運営委員名簿

1. 高等教育機関

(平成19年10月1日現在)

機関・団体名	構 成 員		運 営 委 員		連 絡 先				備 考
	役 職	氏 名	役 職	氏 名	住 所	担当課	T E L	F A X	
福島県立医科大学	学 長	高地 英夫	学務部長	藤田 禎三	〒960-1295 福島市光が丘1	学 務 グループ	024- 547-1095	024- 547-1989	
会 津 大 学	学 長	角山 茂章	学生部長	太田 光一	〒965-8580 会津若松市一 箕町大字鶴賀字上居合90	学生部学生課 厚生係	0242- 37-2515	0242- 37-2526	
会津大学短期大学部	学 長		学生部長	森 文雄	〒965-8570 会津若松市一 箕町大字八幡字門田1-1	事 務 グループ	0242- 37-2301	0242- 37-2412	
奥 羽 大 学	学 長	清水 秋雄	学生部長	鈴木 陽典	〒963-8611 郡山市富田町字三角堂31-1	学 生 課	024- 932-9117	024- 933-7372	
日本大学工学部	学 部 長	小野沢元久	学生課長	吉田 廣幸	〒963-8642 郡山市田村町徳定字中河原1	学 生 課	024- 956-8633	024- 956-8795	
郡 山 女 子 大 学	学 長	関口 富左	国際交流推進 委員会主任	真 船 均	〒963-8503 郡山市開成3-25-2	学務部学生 生活課	024-933-1958		
郡山女子大学短期大学部									
いわき明星大学	学生部長	勝又 春次	学生部長	勝又 春次	〒970-8551 いわき市中央台飯野5-5-1	学 長 室	0246- 29-7190	0246- 29-7109	
東日本国際大学	学 長	吉野 公喜	国 際 センター長	中田 秋男	〒970-8023 いわき市平鎌田字寿金沢22-1	国 際 センター	0246-35-0410		
いわき短期大学	学 長	田久昌次郎							
福 島 学 院 大 学	学 長	阿部 正	タシケント 国立東洋学 大学交流担当	三 浦 尚之	〒960-0181 福島市宮代乳児池1-1	教 務 課	024- 553-9657	024- 553-3222	
福島学院大学短期大学部									
桜の聖母短期大学	副 学 長	上野 正治	学生部長	小泉 泰宏	〒960-8585 福島市花園町3-6	学 生 部	024- 534-7137	024- 531-2320	
福島工業高等専門学校	校 長	奈良 宏一	国際交流委員長	島居 孝栄	〒970-8034 いわき市市上荒川字長尾30	学 生 課 教 務 係	0246- 46-0732	0246- 46-0742	
福 島 大 学	学 長	今野 順夫	副 学 長	中井 勝己	〒960-1296 福島市金谷川1	学生支援 グループ	024- 848-8055	024- 848-7681	

2.国及び地方公共団体

機関・団体名	構 成 員		運 営 委 員		連 絡 先			備 考	
	役 職	氏 名	役 職	氏 名	住 所	担当課	TEL		FAX
仙台入国管理局郡山出張所	所 長	押 野 暢	所 長	押 野 暢	〒963-8024 郡山市朝日2丁目22番7号		024-936-3231	024-936-3229	
福 島 県	知 事	佐藤 雄平	生活環境部長	阿久津文作	〒960-8670 福島市杉妻町2-16	生活環境部 県民環境政策和風 国際交流グループ	024-521-7182	024-521-7919	
福 島 市	市 長	瀬戸 孝則	総 務 部 長	高橋 精一	〒960-8601 福島市五老内町3-1	総 務 部 企画政策課	024-525-3739	024-525-3194	
郡 山 市	市 長	原 正夫	総 務 部 長	大越 則夫	〒963-8601 郡山市朝日1丁目23-7	総 務 部 庶 務 課	024-924-2031	024-924-0956	
い わ き 市	市 長	櫛田 一男	市民協働部長	鈴木 英司	〒970-8686 いわき市平字梅本21番地	企画調整部 都市交流課	0246-22-7415	0246-22-7609	
会 津 若 松 市	市 長	菅家 一郎	企画政策部長	佐藤 哲夫	〒965-8601 会津若松市東栄町3-46	企画政策部 企画調整課	0242-39-1201	0242-39-1400	
福島県教育委員会	教育長	野地 陽一	政 策 監	小松 信之	〒960-8688 福島市杉妻町2-16	教育総務領域 総務企画グループ	024-521-7757	024-521-7969	
福 島 県 市 長 会	郡山市長	原 正夫	福島県市長会 常 務 理 事	宮崎 憲治	〒960-8043 福島市中町8-2	福 島 県 市 長 会	024-522-6682	024-524-0322	
福 島 県 町 村 会	会 長	湯田 雄二	常務理事兼 事務局長	馬場 恒郎	〒960-8043 福島市中町8-2	総 務 課	024-523-0131	024-522-9279	

3. 經濟團體等

機関・団体名	構 成 員		運 営 委 員		連 絡 先				備 考
	役 職	氏 名	役 職	氏 名	住 所	担当課	T E L	F A X	
(財)福島県国際交流協会	理 事 長	山川 充夫	専 務 理 事	五十嵐直樹	〒960-8012 福島市舟場町2-1 福島県庁舟場町分館2階	多言語コーディネーター(何敷)	024-124-1316	024-521-8308	
福島県商工会議所連合会	会 長	瀬谷 俊雄	常任幹事	山田 義夫	〒960-8053 福島市三河南町1-20 コラッセふくしま8F	総 務 部	024-536-5511	024-525-3566	
福島県商工会連合会	会 長	田子正太郎	専 務 理 事	根本 佳夫	〒960-8053 福島市三河南町1-20 コラッセふくしま9F	総 務 部 総 務 課	024-525-3411	024-525-3413	
福島県経営者協会連合会	会 長	福井 邦顕	事 務 局 長	佐藤 卓也	〒960-8041 福島市大町4-15	事 務 局	024-521-3350	024-521-3420	
福 島 経 済 同 友 会	代表幹事	花田 昂	事 務 局 長	松野 義廣	〒960-8041 福島市大町4-4 東邦スクエアビル内		024-523-3171	024-522-5663	
※日本青年会議所東北地区福島ブロック協議会	会 長	荒井 大蔵	運 営 専 務	亀澤耕一郎	〒960-8041 福島市大町1-13 第2長谷川ビル		024-528-1145	024-528-1146	
ライオンズクラブ国際協会332-D地区キャビネット事務局	キャビネット副幹事	赤津 詔司	Y E 委 員 長	佐藤 正廣	〒963-0102 郡山市安積町笹川字彼岸塚22-9	ライオンズクラブ国際協会332-D地区キャビネット事務局	024-937-0830	024-937-0831	
国際ロータリー第2530地区	米山記念奨学会委員会委員長	加藤 義朋	米山記念奨学会友会小委員長	渡部九二五郎	〒960-8141 福島市渡利字沖町133-2		090-4319-1110	024-522-8047	
国際ソロプチミスト福島	国際親善と理解活動委員長	阿曾 雅子	会 長	岩崎 芳子	〒960-8031 福島市栄町7-33 (株)福島トヨビル内			024-523-4849	

福島県留学生交流推進会議要項

(目的・設置)

第1 福島県内における留学生の円滑な受入れの促進と交流活動の推進を図り、地域住民の国際理解に寄与するため、福島県留学生交流推進会議（以下「推進会議」という。）を置く。

(定義)

第2 この要項において「留学生」とは、教育、研究指導を受ける目的で入国し、福島県内の高等教育機関等に留学する者をいう。

(組織)

第3 推進会議は、次に掲げる委員をもって組織する。

(1) 福島県内の高等教育機関(福島大学を除く。)、国及び地方公共団体、経済団体、国際交流関係団体等の長又は代表者1名

(2) 福島大学長

(3) その他推進会議が必要と認めた者若干名

(協議事項)

第4 推進会議は、第1に掲げる目的を達成するために、福島県内の留学生について、受入れの促進、生活環境の改善及び地域住民との交流等について協議する。

第5 推進会議に議長を置き、福島大学長をもって充てる。
2 議長は、推進会議を招集する。

福島県留学生交流推進会議運営委員会要項

(趣旨)

第1 この要項は、福島県留学生交流推進会議要項第7第2項に基づき、福島県留学生交流推進会議運営委員会（以下「運営委員会」という。）について定めるものとする。

(組織)

第2 運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 推進会議要項第3第1号の団体から選出された者
- (2) 福島大学副学長
- (3) 福島大学から選出された若干名
- (4) その他運営委員会が必要と認めた者若干名

(審議事項)

第3 運営委員会は次に掲げる事項を審議する。

- (1) 宿舍確保の促進に関すること。
- (2) 奨学助成制度の充実に関すること。
- (3) ホームステイ等の拡充に関すること。
- (4) 地域住民との相互交流の確立に関すること。
- (5) その他、推進会議の目的を達成するために必要な事項。

(会員以外の出席)

第6 議長が必要と認めるときは、推進会議の同意を得て、構成員以外の者を出席させることができる。

(運営委員会)

第7 推進会議の円滑な運営を図るため、福島県留學生交流推進会議運営委員会（以下、「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会に関する必要な事項は、別に定める。

(事務)

第8 推進会議の事務は、福島大学学生支援グループにおいて処理する。

(その他)

第9 この要項に定めるもののほか、推進会議の運営等に関する必要な事項は、推進会議において別に定めることができる。

附則

この要項は、平成2年2月22日から施行する。

この要項は、平成13年12月13日から施行し、平成13年4月1日から適用する。

この要項は、平成15年1月30日から施行し、平成14年4月1日から適用する。

この要項は、平成20年1月24日から施行し、平成19年4月1日から適用する。

(委員長)

第4 運営委員会に委員長を置き、福島大学副学長をもって
充てる。
2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

(事務)

第5 運営委員会の事務は、福島大学学生支援グループにおいて処理する。

(その他)

第6 この要項に定めるもののほか、運営委員会の運営等に関する必要な事項は、運営委員会において別に定めることができる。

附則

この要項は、平成2年2月22日から施行する。

この要項は、平成13年12月13日から施行し、平成13年4月1日から適用する。

この要項は、平成15年1月30日から施行し、平成14年4月1日から適用する。

この要項は、平成20年1月24日から施行し、平成19年4月1日から適用する。